

教育トレンド

1. 国際的な学力要件は知識を活用する力

▶ PISA 調査（OECD 生徒の学習到達度調査）で重視していること

思考プロセスの習得

概念の理解

知識を活用する力

	数学	読解力	科学
2000年	1位	8位	2位
2003年	6位	14位	2位
2006年	10位	15位	6位
2009年	9位	8位	5位
2012年	7位	4位	4位

国際的な学力調査では、基本的知識や技能に加えて、それらを活用する能力を測っている。

2. 平成25年度 全国学力・学習状況調査にみる 日本の子どもたちの課題

▶ 小学校「国語」における課題等

全体的な状況

- ・下の学年で習得しておくべき**基礎的・基本的な知識・技能の定着状況に不十分なもの**があり、指導の充実が求められる。
- ・過去の調査との関連を見ると、**複数の内容を含む文や文章を分析的に捉えたり関連付けたりしながら、自分の考えを書くこと**について、依然として課題がある。

話すこと・聞くこと

- ・話し手の意図を捉えながら聞き、適切に助言をすることに課題がある。

書くこと

- ・目的に応じて資料を読み、全体から分かることを書くことに依然として課題がある。
- ・目的や意図に応じ、**必要な内容を適切に引用したり複数の内容を関連付けたりしながら、自分の考えを書くこと**について、依然として課題がある。

▶ 小学校「算数」における課題等

全体的な状況

- ・図や表を観察して、**問題の解決に必要な情報を選択すること**に課題がある。
- ・場面の状況や操作の意味に基づいて、式を**的確に読むこと**について課題があり、全学年を通じて指導の充実が求められる。

数と計算

- ・四捨五入で数を適切に処理する方法についての理解に課題がある。
- ・示された三つの処理の仕方から、**最も合理的な処理の仕方を選択すること**に課題がある。

量と測定

- ・単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解することに課題がある。
- ・示された分割の仕方を解釈し、面積が等しくなることを**言葉と数を用いて記述すること**に課題がある。

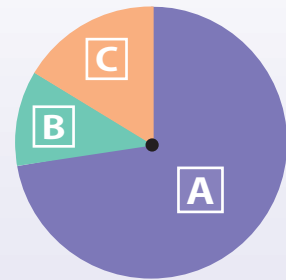
図形

- ・合同な図形をかくために**必要な条件を理解すること**に課題がある。

3. 平成25年度 全国学力・学習状況調査にみる 無回答の理由

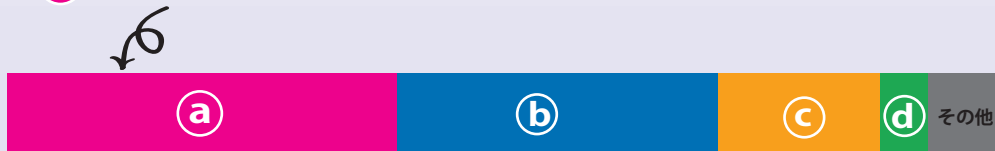
▶ 小学校「算数」における無回答の理由

- A** 解答しようとしたが、問題が難しくて解答できなかった (約73%)
- B** 書く分量が多い問題だったので、解答しようと思わなかった (約11%)
- C** 他の問題に解答していたら、解答する時間が足りなくなった (約14%)



さらに、**A** の内訳をみると…

a 問題文の意味が分からなかったので、何も書かなかった (38.8%)



b 求める方法が分からなかったので、何も書かなかった (32.9%)

c 求める方法は分かったが、どのように書いたらよいか考えが
まとまらなかったため、何も書かなかった (16.2%)

d 考えはまとまったが、解答に自信がなかったため何も書かなかった (5.1%)

▶ 中学校「数学」における無回答の理由でも

- A** 解答しようとしたが、問題が難しくて解答できなかった (約66%)
- B** 書く分量が多い問題だったので、解答しようと思わなかった (約25%)
- C** 他の問題に解答していたら、解答する時間が足りなくなった (約7%)

..... **A** のうち、**a** 問題文の意味が分からなかったため、何も書かなかった (50.5%)

※文部科学省国立教育政策研究所『平成25年度 全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント』より作成



依然として、子どもたちの「読解力・書く力」不足が問題視されている。